令和 6 年度　東京都内湾水生生物調査　6 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 6 年 6 月 6 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りのち晴で、気温は 23.0～28.1℃、調査地点は南の風、風速 0.5～3.0m であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 39 分、満潮は 17 時 41 分であった（気象庁のデータ）。また、お台場海浜公園で赤潮が発生していた。

5 月調査に続き、全調査地点においてハゼ科が多く出現した。なかでも葛西人工渚ではマハゼとエドハゼが、お台場海浜公園ではビリンゴが非常に多く出現した。

	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	8:49-10:08	10:56-12:32	12:55-14:19
水温(℃)	22.8	24.9	23.8
塩分(-)	10.9	3.4	17.4
透視度(cm)	46.5	32.5	33.0
DO(mg/L)	5.1	6.6	13.4
DO飽和度(%)	62.9	81.9	176.2
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.1	7.4	8.3
水の臭気	微下水臭	中下水臭	微海藻臭
備考		ニホンイサザアミが大量(10kg超)に入網した。	赤潮が発生していた。

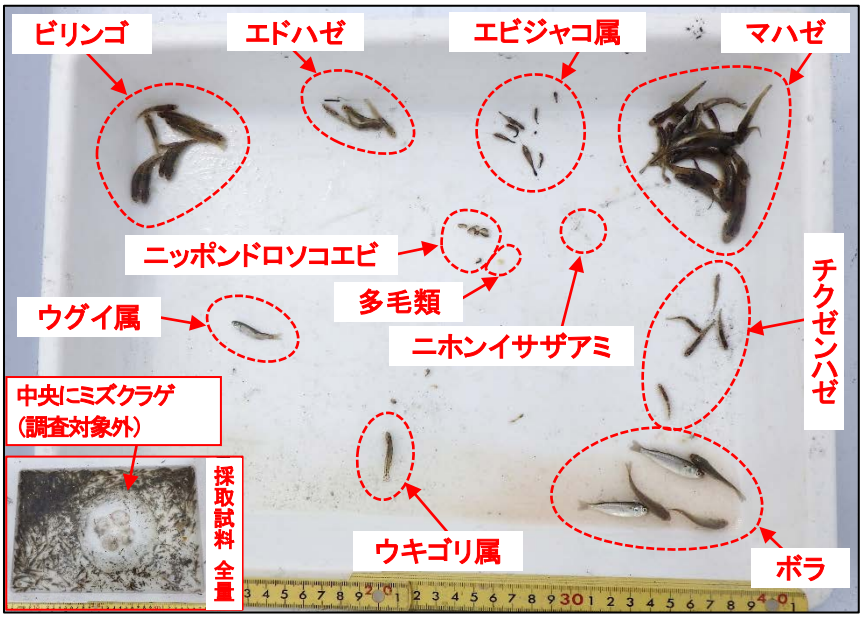
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種（多い順[注]）	マハゼ(m)	マハゼ(G)	ビリンゴ(G)
	ビリンゴ(c)	エドハゼ(G)	マハゼ(m)
	エドハゼ(+)	チクゼンハゼ(m)	ボラ(m)
	チクゼンハゼ(+)	ビリンゴ(m)	チチブ属(+)
	ボラ(+)	ボラ(c)	クロダイ(r)
魚類以外	エビジャコ属(c)	ニホンイサザアミ(G)	ニホンイサザアミ(+)
	ニッポンドロソコエビ(c)	エビジャコ属(m)	シラタエビ(r)
	ニホンイサザアミ(+)	シラタエビ(+)	ユビナガスジエビ(r)
備考	他にウキゴリ属、ウグイ属、多毛類が採集された。	他にウキゴリ属、トラフグ、コノシロ、ヨコエビ類が採集された。	他にトラフグ、ニシン科、アシシロハゼ等が採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

森ヶ崎の鼻　採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏にオスが河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中にメスが産卵する。

エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくい。

チクゼンハゼ

河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似るが、体側に明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があるのが本種の特徴。

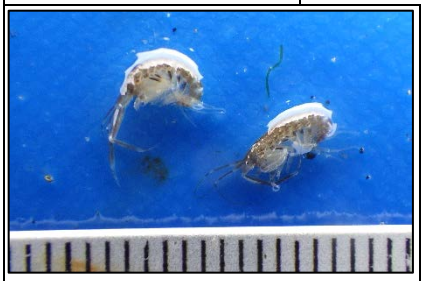
ウキゴリ属

産卵期は冬から早春。アユと同じように仔稚魚は干潟で成長し、その後、河川を遡上する。河川中流から河口域で生活する。干潟域で見られる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの 2 種が混じっていることが多い。

ウグイ属

コイ科魚類の中では珍しく降海するものを含むグループで、東京湾にはマルタと降海型のウグイが出現する。幼魚は判別が難しいが、産卵期の成魚は赤黒の鮮やかな婚姻色に体表の黒線がマルタは 1 本、ウグイは2本であることで区別できる。

ニッポンドロソコエビ



体長 1～2cm ほどになる。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。主に懸濁物を食べているが、小型甲殻類を捕食することもある。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。

葛西人工渚　採取試料

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

コノシロ

内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。体長 10 cm前後のものはコハダと呼ばれる。

チクゼンハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。コノシロ同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

マハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

本地点では、マハゼとエドハゼがそれぞれ1000個体を超えて採集された。

エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

ヨコエビ類

体長 1cm ほどの小型甲殻類。ヨコ「エビ」と言うが、エビ(十脚目)の仲間ではない(ヨコエビは端脚目)。東京湾でよく見られるヨコエビ類は扁平な体のものが多く、転石上をその平べったい体を横にしてはい回るように動く。

お台場海浜公園　採取試料

水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

ニシン科（仔魚）

サッパまたはコノシロと見られる仔魚。内湾や河口域に生息する。いずれも産卵期は春から初夏だが、サッパの方がやや遅い。ふ化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。7y

クロダイ

東京湾全域に出現。夏秋の幼魚期は内湾や沿岸域に定着し、秋冬になると内湾周辺の深場で越冬をする。産卵期には浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。

トラフグ

成長すると 70 cmほどになる。胸鰭の後ろ斜め上の黒斑が白く縁どられていることで、クサフグ等と見分けられる。稚魚期は河口域で見られることも多い。

チチブ属

ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では 6～9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等で孵化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水～淡水域に移動する。産卵期は早春。

アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。